吉備路という言葉は，地元の神野さんが，大和路に対して吉備路という言葉を考えました。考古学の先生方に，随分，いろいろと指摘されました。皆さんは，吉備路ということになれば,この地域を思い出されますか。あるいは，もっと大きく考えれば吉備全体の中心ということのイメージを受けるんでしょうか。県立吉備路郷土館は，今までは，順調に進んできたんですけども，昨年辺りから不景気になりまして，また，岡山県の財政が非常に厳しくなって，吉備路郷土館を閉鎖するんだという話が持ち上がりました。それに対して，岡山県の研究者の皆さんが，それでは困ると反対の動きをされています。

入館者が少ないから閉鎖されようとしていることもあろうかとその推移をみますと，昭和５２年の段階では２万４千人位，昭和６１年には４万３千人位，ここ最近は１万６千から３千位です。これが多いか少ないかは色々議論するところです。岡山県立博物館は，年間，大体４万５千から４万２千位です。もし，総社市に博物館を誘致してこの付近に建てられるとなれば，ここは，まさに古代吉備の中心的な地域であり，備中の中心的な地域ですから，遺跡を絡めていけばもっと増える気もします。

吉備路郷土館については，作られる当時から，資料館を奥の目立たない所におけというような声が強かったようです。だから，あそこに行こうという人は少ないです。でも，中の資料や展示はそんなに悪いものではありません。古代吉備文化の遺物と遺跡を最初に県内で紹介したのも吉備路郷土館で，それなりの働きはしています。今現在は，こうもり塚古墳の陶棺や緑山古墳群，江崎古墳の須恵器などの遺物を一同に集めてありますから，非常にいい見映えする展示をしています。風土記の丘でそういう展示施設が閉鎖されるということは他にないんじゃないでしょうか。博物館や公共の施設に NPO や企業が参加してもいいです。それはそれとして今後皆様方を中心にして推し進めてどうしたらいいかと考えながら，景観を守っていきながら，葛原さんに続くような人材を育てる歴史的風土をこれからも保持していただければありがたいと思います。10 月 6 日に剥落したと報道された千足古墳の石障の模型は，郷土館にあるものが唯一ですから，その点でも郷土館は本当に意義をもって生き残ってきました。まあ閉館されるのはちょっと残念ですけども，これからも業績が生きてきますし，そういう資料が生きてきます。行政の一つの成果として生きるのではないでしょうか。

地域博物館という言葉は私が作ったんではありませんが，１９８０年代，岡山の場合はもうちょっと古い１９７１年に県立博物館を開館しました。何で博物館が要るんですかと，よく言われるのに外国のお客さんが来て日本文化を知ってもらうのには，やっぱり博物館でしょう。東京上野の（独）国立博物館，つまり日本の顔をだせといったら，色々な顔はありますが，その一つは（独）

国立東京博物館，岡山県の顔は県立博物館です。地域の文化をどう汲み取っていくのでしょうか。博物館は，何をする所でしょうか，物を展示するところです。いやそれだけではありません。調査研究するところです。その研究に基づいて展示するところです。博物館というのは，博物館法に基づいて資料を収集して調査研究して普及啓発する，それ以上に地域の特性や地域の文化をどう引き出していくかというのが，それぞれの地域の博物館活動でなければいけないと思います。地域に密着したというのは，そのことになるんじゃないでしょうか。

岡山県にどんな博物館があるのでしょうか。

岡山県立博物館は昭和４６年開館。

津山郷土博物館も５０年代。津山城のふもと，建物は旧津山市役所の建物。だから非常に限られた展示スペースで調査研究室というのもありません。作業場もありません。

備前市の歴史民族資料館。資料館といいながらも学芸員の人がよく研究されましてなかなかいい展示をしていて，地域博物館のひとつです。

倉敷市立自然史博物館。ナウマン象が２匹，迎えてくれて飽きません。いい博物館です。学芸員の方が地道に活動されて，植物から動物から魚類から岩石からずっと高梁川流域を中心にして資料を収集して調査研究して，いろいろ普及啓発活動なさっていてこれは優れています。入館料も非常に安いです。これは非常に特徴ある地域博物館ですね。

津山の科学博物館。これも津山城の大手門の近くにあります。人の胎児，その他に動物の剥製がいろいろあります。

総社市埋蔵文化財学習の館。これは総社では充実した内容を持っています。ただ，小学校の跡地で奥まったところにあります。

倉敷考古館は，金蔵山古墳の資料とか児島湾縄文土器など優れたものがあります。

これからの博物館は，特に中学生や高校生が気楽に寄れるような展示ルームがほしいです。あるいは，おじいちゃん，おばあちゃんが孫と一緒に行っても遊べるような，そういうものを盛り込んでもらってほしいと思います。

津山では，洋学資料館を全面的に改修しまして，新しい建物を作りまして今最終的な展示を整備してる最中で来年四月にオープンすると思います。

参考文献の『地域博物館への提言』の中で，日本展示学会の川添登さんが，博物館の三つの目的のようなものを出していました。博物館というのは，地域志向型のもの，中央志向型のもの，観光志向型のもの，そういう分け方ができます。

地域志向型博物館，地域固有の課題に応える博物館。例えば，津山郷土博物

館とか倉敷自然史博物館。中央志向型は，全国や全県単位，科学的知識や成果を普及する，これは，県立博物館。観光志向型，資料を通して地域の魅力や特性を惹きだす，資料の持つ意外性や認知性を中心にして展示する，観光が中心ですから一過性のものでいいんでないかということをいっています。

別の形でみますと，第一世代，第二世代，第三世代。博物館の第一世代とは，昔の国立博物館，資料の保存を志向するものです。資料を保存して後世に伝えるものです。これは昔の博物館，第一世代といいます。第二世代というのは資料を保存しながら公開していく公開志向型，保存型公開志向型。最近では，博物館第三世代，参加体験型。今の吉備路郷土館でも参加体験型をやっています。参加とは，勾玉を作ったりあるいはビーズ玉を作ったりというような体験で古代の技術の一部がわかるんじゃないかということです。博物館を作るというのは先の３つがまとまった状態で志向していかないといけないだろうと思います。そういう地域を考えた場合に，総社市のどこに博物館を建設すると考えた場合に，遺跡や遺物の関係で博物館との関係を強めていくことです。そういう考えでいくと鬼ノ城とか国分尼寺跡，こうもり塚だと思います。やっぱり県立博物館ということになれば鬼ノ城を抜きにしてはいけません。鬼ノ城は何らかの格好で大きな目玉になります。中国や朝鮮半島と交信できるような核としての鬼ノ城ですので，これからの学芸員は英語はもちろん韓国語ができる人，中国語ができる人が学芸員にどうしても必要です。どれかで交信できるような情報が交流できるようなことは鬼ノ城がある限り，こちらに博物館ができる限り必要でしょう。

皆さん博物館といったら総社のどの辺をお考えでしょうか。遺跡に近いという事が一つ，もう一つは，鬼ノ城です。博物館を作って屋上かどこかで 100 円いれたら，鬼の城の西門が見えるというのがほしいですね。

もう一つは，ここの国分尼寺。国分尼寺であんなに保存状態がいいのは，全国で探してもありません。これは誇っていいと思います。これを将来的に整備出来るかどうかを含めまして確認調査をしてもらいたいと思います。整備もしないと宝の持ちぐされになるんじゃないでしょうか。遺跡を調査しながら整備していって新しい情報を提供してお客さんを呼ぶことが魅力を引き出すんじゃないでしょうか。国分尼寺の軒丸瓦と軒平瓦。ここの国分寺も同じ瓦を使っていますが，平城京との繋がりが強いです。是非ともこの機会にみなさん方で声を出していただきたいと思います。何とか整備していく方向でお考え下さればいいかと思います。

また，こうもり塚の陶棺ですけど，ちょうど今吉備路郷土館の２階に展示しています。埴輪の下の部分を付けたような脚，屋根や身の部分は飾っています。これも日本にこれしかないんです。世界に一つしかありません。これもなかな

か復元は大変でしょう。蓋の部分に非常に細かいヘラで書いたような模様を飾っています。粘土紐を波にして飾っています。やはりこの陶棺は精製された土を使ってるんじゃないでしょうか。これも是非とも復元したいです。復元したら県立博物館の大きな目玉になります。

そういう目玉商品をいくつか総社市にはお持ちなんですから，そういうものを糧にして，これから誘致を進めていただきたいと思います。博物館を誘致する会が希望している建設立地であのへんということがわかりましたから，これからは交通の便を図るとか駐車場は広く取らないといけないとか，特に高齢化社会ですからお年よりや子どもさんが休める部屋がほしいです。そういう楽しんで一休みして帰れるようなものを是非とも中に入れてもらいたいです。レストラン等のサービスの場所を併設したり，あるいは博物館のオリジナルグッズを販売したりと楽しみながら博物館の見学ができるようなエリアであるというのがほしいです。博物館は物を展示したり，みせたりするところなんですけれども，たくさんの図録を他の博物館から送られてくるんです。そういう図書は最新情報をもっているので，誰でも閲覧できる図書室を置いてほしいです。まだまだ先が長いですけれども，色々みなさんで機会があったら，見学したり，知恵を養いながら，これからの博物館の誘致に向けての活動が深まっていくことを心からお祈りします。